

平成30年度アスジャ・インターナショナル主催
アセアン国費留学生と日本人大学生との
国際交流ワークショップ

募集要項





写真：2014年度アセアン文化交流事業「アセアン文化祭典」

アセアンとは？

アセアン＝東南アジア諸国連合(Association of South-East Asian Nations, ASEAN)は、東南アジアにおける地域協力機構である。

経済成長、社会・文化の発展、政治の安定などを目的に、1967年の「バンコク宣言」によって設立された。

現在、東南アジアの10ヶ国が加盟している。

＜加盟国＞

インドネシア、マレーシア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ミャンマー、カンボジア、ベトナム、ラオス

アスジャ・インターナショナル主催

アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップ

掲載内容

アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップとは

ワークショップの進め方

グループワーク

ワークショップのねらい

レクチャー

講師紹介

ファシリテーション・チーム、学生支援チーム紹介

期待される効果

アスジャ・インターナショナルについて

概要、組織・運営、事業内容

参加者の感想

過去のワークショップの様子

スケジュール

募集要項

実施概要

日本人大学生の参加資格および条件

申込方法

アスジャ・インターナショナル事務局への申込書提出締切

問い合わせ先



写真：2017年度開催のワークショップより

アセアン国費留学生と日本人大学生との 国際交流ワークショップとは

将来のアセアン各国のリーダー候補としてアスジャ・インターナショナルが受け入れているアセアン国費留学生と、日本のグローバル人材として活躍を期待される日本人大学生が、国立オリンピック記念青少年総合センターにおける3泊4日の宿泊交流を通じ、お互いの国の文化や日本とアセアンの将来の課題、国際協力について、英語による意見交換を行い相互理解を深める。

朝から晩まで英語によるコミュニケーションが続く合宿生活を送ることで、都内にいながらにして留学体験が味わえる。

アスジャ・インターナショナルが2014年度から新規で開催し、2017年度は上智大学、東京外国語大学、千葉大学、慶應義塾大学、京都大学、埼玉大学から日本人大学生18名が参加した。アセアン国費留学生は38名が参加した。

キーワード：

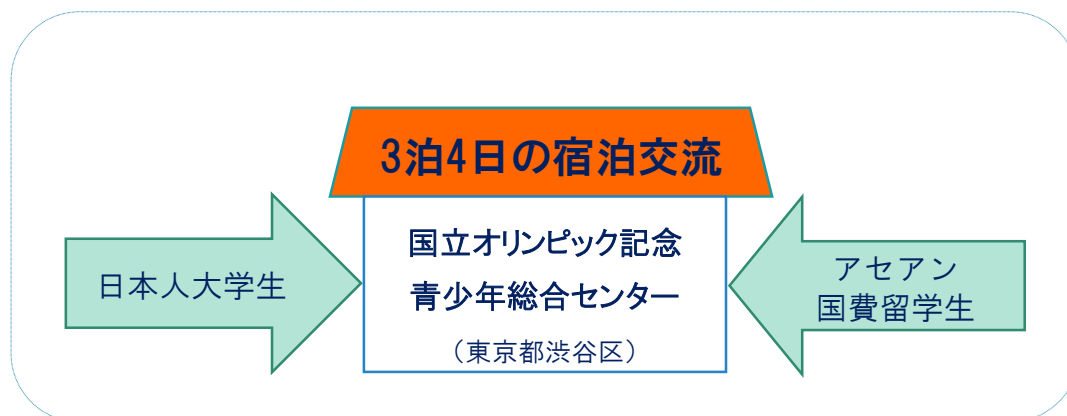
- ✓ アセアン国費留学生
- ✓ 日本人大学生
- ✓ アセアン
- ✓ 東南アジア
- ✓ グローバル人材
- ✓ 合宿形式
- ✓ ワorkshop
- ✓ 英語による意見交換
- ✓ 相互理解
- ✓ アスジャ・インターナショナル

アスジャ国費留学生とは？

文部科学省の奨学金を得て日本の大学の大学院・学部で学ぶためにアセアン加盟10ヶ国から来日し、アスジャ・インターナショナルが受け入れている外国人留学生。



アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップとは



- ✓ アスジャ・インターナショナルが受け入れているアセアン10カ国の国費留学生と、グローバル人材を目指す日本人大学生との国際交流
- ✓ 国立オリンピック記念青少年総合センターでの英語合宿
- ✓ 日本・アセアンをテーマに行うディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション
- ✓ 都内にいながらにして味わえる留学体験
- ✓ お互いの国の文化、各国の将来や課題、国際協力について意見交換を行い、相互理解を深める。

ワークショップ (workshop) とは？

多様な文化や資質を持った人たちが、全員参加型の協働作業を行い、相乗効果を生みながら問題解決や創造、学びを行う手法。

近年、留学生と日本人学生が共に学ぶ「国際共修」への関心が高まりつつあるが、その手法としてワークショップが採りいれられている。

言語・文化の異なる学生同士が、互いを理解し自己を確立するための、問題解決力・コミュニケーション力・創造力を育てる人材育成ツールとして、高等教育現場での積極的な採用が期待されている。

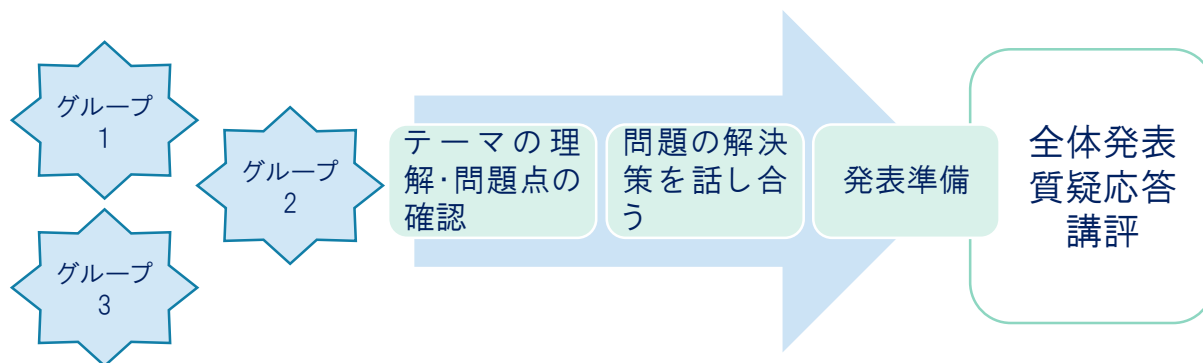


写真：2017年度開催のワークショップより

ワークショップの進め方

- ◆ グループごとのディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどのワークショップを、プロジェクト形式で実施する。
- ◆ レクチャーやファシリテーションを提供し、学生同士の積極的な議論を促進する。
- ◆ グループワーク終了後、全体発表会(プレゼンテーション)を行い、質疑応答・講評を通して、プロジェクトにおけるPDCAサイクル*についても学ぶ機会を提供する。

*PDCAサイクル：「計画」(Plan)、「実行」(Do)、「点検」(Check)、「改善」(Act)の頭文字をとったプロジェクト管理手法のひとつ。業務を継続的に改善するために企業等で導入されている。



グループワーク

アセアン国費留学生と日本人学生との混合グループによるプロジェクト形式を採用

～ 1グループを10人程度で構成 ～

- アイスブレイク: グループメンバーがお互いを知る
- ステップ1: テーマの理解と問題点の確認作業
- ステップ2: 問題の解決策について議論
- ステップ3: 発表準備(レジュメ作成等)
- 全体発表(プレゼンテーション)、質疑応答、講評

- ディスカッション
- グループワーク

- レクチャー
- ファシリテーション

- プレゼンテーション
- 質疑応答・講評



プロジェクトにおけるPDCAについて学ぶ

写真: 2016年度開催のワークショップより



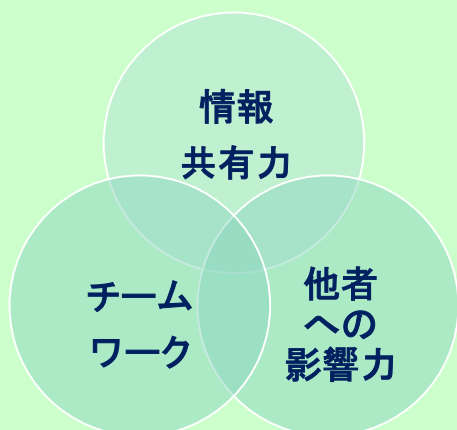
写真： 2017年度開催のワークショップより

アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流 ワークショップのねらい

◆ 将来日本・アセアン各国でリーダーとしての活躍を期待される大学生の、
グローバル環境下におけるコミュニケーション能力を高めるため、

1. 情報共有力
2. チームワーク
3. 他者への影響力(リーダーシップ等)

を醸成し、社会の変化に対応できる汎用的な能力を身につける機会を提供する。



キーワード:

- ✓ 多様性
- ✓ 協働作業
- ✓ 問題解決力
- ✓ コミュニケーション力
- ✓ 創造力
- ✓ 国際共修
- ✓ 人材育成

レクチャー

- ◆ 日・アセアン関係の専門家を講師として招き、現場での実務経験談や専門知識の解説を行う。
- ◆ 学生同士の積極的な議論を促進し、学生のキャリア意識を高める場を提供する。



<過去のレクチャー>

- 2015年度 「Japan's Views and Perspective on ASEAN Economy」

経済産業省通商政策局アジア大洋州課

課長補佐 植田 一全氏

- 2016年度 「ASEAN-Japan Economic Cooperation」

経済産業省通商政策局アジア大洋州課

課長補佐 伊藤 充洋氏

2018年度レクチャー

講師紹介 小川 郷太郎 氏



- アスジャ・インターナショナル日本理事
- 元駐カンボジア特命全権大使、元駐デンマーク特命全権大使
- 1968年外務省入省。2007年に退官。
- 40年近い外交官生活のうち、23年間を海外（フランス2回、デンマーク兼リトアニア、旧ソ連、フィリピン、韓国、カンボジア、ホノルル）で過ごす。外務本省では、条約局、経済局、経済協力局、国際情報局、欧亜局に勤務。また、外務大臣秘書官、国際協力機構（JICA）総務部長なども歴任。最後の任務は「イラク復興支援担当大使」として、イラクや中東諸国を行き来した。



写真： 2017年度開催のワークショップ・レクチャーより

ファシリテーション・チーム紹介

- 日本・アセアン・英国の大学院において、修士号・博士号を取得したメンバーによるファシリテーションを実施
- 「アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップ」経験者

チーム・メンバー1

国籍	インドネシア
学士課程	アンダラス大学(インドネシア)
修士課程	長岡科学技術大学大学院
博士課程	長岡科学技術大学大学院
最終学位	環境システム工学修士
現在	長岡科学技術大学大学院エネルギー・環境工学専攻博士課程2年

チーム・メンバー2

国籍	マレーシア
学士課程	マレーシア工科大学(マレーシア)
修士課程	マレーシア工科大学大学院(マレーシア)
博士課程	九州大学大学院
最終学位	電気電子工学博士
現在	長崎大学工学研究科電気・情報科学部門研究員

チーム・メンバー3

国籍	ミャンマー
学士課程	マンダレー歯科大学(ミャンマー)
修士課程	N/A
博士課程	東京医科歯科大学大学院
最終学位	口腔外科博士
現在	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯周病学専攻博士課程4年

チーム・メンバー4

国籍	インドネシア
学士課程	サムラトウランギ大学(インドネシア)
修士課程	東京海洋大学大学院
博士課程	東京海洋大学大学院
最終学位	海洋環境保全学修士
現在	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科博士後課程応用環境システム学専攻1年

チーム・メンバー5

国籍	ラオス
学士課程	ラオス国立大学(ラオス)
修士課程	東京国際大学大学院
博士課程	東京国際大学大学院
最終学位	経済学修士
現在	東京国際大学大学院経済研究科経済専攻博士課程1年

チーム・メンバー6(チーム統括)

国籍	日本
学士課程	千葉大学
修士課程	バーミンガム大学大学院(英国)
博士課程	N/A
最終学位	国際教育学修士
現在	アスジャ・インターナショナル事務局スタッフ

学生支援チーム紹介

- ワークショップ参加期間中の学生支援を実施(日本語対応可)
- 「アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップ」経験者

チーム・メンバー1

国籍	ブルネイ
学士課程	ブルネイ大学(ブルネイ)
修士課程	一橋大学大学院
最終学位	初等英語教育学士
現在	一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻人間・社会形成研究分野修士課程2年

チーム・メンバー2

国籍	マレーシア
学士課程	群馬大学
修士課程	N/A
最終学位	N/A
現在	群馬大学医学部医学科4年

チーム・メンバー3

国籍	インドネシア
学士課程	大阪大学
修士課程	N/A
最終学位	N/A
現在	大阪大学基礎工学部情報科学科3年

チーム・メンバー4(全体統括)

国籍	日本
学士課程	早稲田大学
修士課程	ウォーリック大学大学院(英国)
最終学位	国際政治経済学修士
現在	アスジャ・インターナショナル事務局主幹





写真： 2017年度開催のワークショップより

期待される効果 — 大学生全体 —

日本とアセアン各国との相対化

大学生が自国を客観視し、各国の問題意識を理解する。

多様な価値観の中で協働するためのイメージをつかむ。

宗教から民族、言語にいたるまでの多様性を持つアセアンからの留学生と、日本人大学生とが、グループによるワークショップを通して、将来異なる国籍の人間同士で仕事する環境のイメージをつかむ。

限られた状況・環境下において活躍するための肉体的・精神的な力を身につける。

国立オリンピック記念青少年総合センターでのプログラムや、団体行動、英語でのコミュニケーション体験を通じて、適応力や柔軟な思考力を高める。

～ 事後感想文に寄せられた参加者からのコメント ～

- 自分とは異なる視点に触れ、視野を広げるきっかけになった。
- 事業終了後もSNS等で連絡を取りあうネットワークも構築できた。現在も交流が続いている。

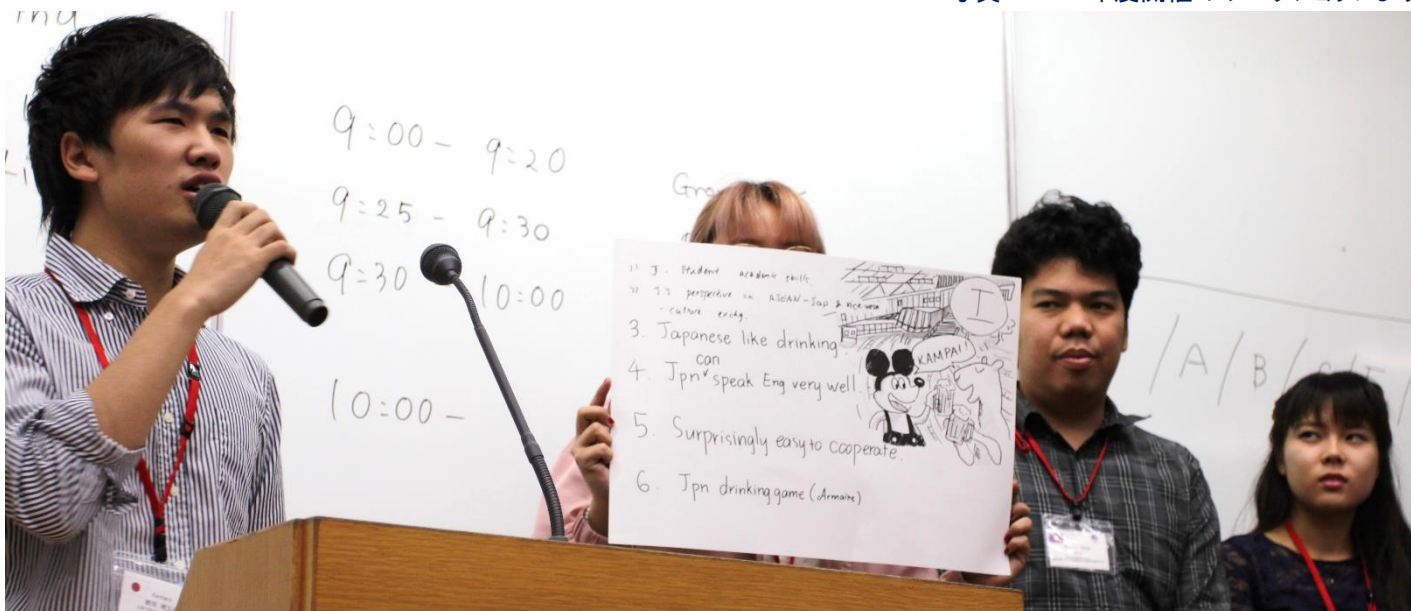
期待される効果 — 日・アセアン別 —

日本人大学生	アセアン国費留学生
◆ 自らが発信主体になることの重要性を認識し、英語力を強化する。 ～グローバル人材として外国人とかわかっていくには、交渉力や情報発信力、自己表現力の開発が必要不可欠～ ◆ 外国人、とくにアセアン留学生の学びに対する積極的な姿勢に触れ、日アセアン関係を理解する。	◆ 日本人大学生との合宿・ディスカッションを通して、日本を体験的に理解する。 ～日本人の考え方、価値観、自然環境、生活習慣、宗教観や歴史認識～ ◆ 自国と日本との違いを日本人に発信し、理解を求めるコミュニケーション力の必要性を認識する。

自国と相手国との違いを体験的に認識することで、
自国の事情に対する理解をより深める。
自分にとっての「母国」を再発見する。

～ グローバル人材になるには、確固たる自己も必要 ～

写真： 2017年度開催のワークショップより



期待される効果 ～ 参加者から寄せられたメッセージより ～

<日本人大学生より>

- アスジャ生の当事者意識に圧倒された。彼らにとって政治や社会問題は大変身近で、自分たちが解決しなければならないと思っている。自分も時事問題により敏感になった。
- 留学生との交流にはこれまでも参加しているが、アスジャのワークショップのようにアカデミックなテーマで、英語でディスカッションするものはあまりなかった。将来留学を考えているので、留学先での様子が想像できてとてもよかった。
- この事業をきっかけとして、言語能力や情報発信力を高めようと思い努力するようになった。英語力もさらに強化したい。

<アセアン国費留学生より>

- 様々な国や専攻の学生とディスカッションすることで、考え方の違いを理解することができた。また、自分の専門分野以外のテーマについても勉強することができた。
- 日本政府の外交政策や、日本人のアセアン諸国に対する見解について理解を深めることができた。
- 日本人はまじめで礼儀正しく控えめで、あまり話さないという印象をもっていたが、自分の意見を積極的に上手な英語で話す日本人学生が多くいることがわかった。普段の大学生活では日本人学生と話す機会が少ないので、ワークショップで日本人と友だちになれてうれしかった。

写真： 2017年度開催のワークショップより





写真：アスジャ・インターナショナル主催「ASEAN設立50周年記念事業－ASEAN Bonded as One－」（2017年度開催）

アスジャ・インターナショナルについて

概要

1. アスジャ・インターナショナル ASJA (Asia Japan Alumni) International (以下、アスジャという)は、**2000年4月に設立**された国際的な組織である。当初5カ国で発足し、**現在10カ国**(インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ミャンマー、カンボジア、ベトナム、ラオス、ブルネイ)が加盟している。
2. アスジャは、**日本国外務省**の拠出金を受けて、**アセアン元日本留学生評議会(ASCOJA*)**に加盟する各国元日本留学生会が推薦する奨学生制度を運営してきた。日本の大学院における教育研究を支援するとともに、留学生に**日本語習得及び日本文化・日本人を理解する機会を提供し、将来の日本とアセアンとの架け橋となるリーダーを育成**することを目的としている。各国1名の奨学生を受入れ、2017年度までの修了生は137名である。
3. 2009年の「事業仕分け」を受け従前のアスジャ奨学金制度は廃止されたが、2014年度の政府予算において新たに「**アセアン留学生交流等拠出金**」が計上され、**文部科学省国費留学生として奨学金を受給しているアセアンからの留学生**を対象に、交流事業は引き続き実施できることになった。2018度はアセアン10カ国から各国元日本留学生会が推薦した**国費留学生(大学院生、学部生) 20名**をアスジャ国費留学生として採用した。これにより、2018年度のアスジャ国費留学生は、大学院生67名、学部生11名の計78名である。

アスジャは2000年の設立以来、福田康夫元内閣総理大臣のご指導・ご支援をいただいて運営してまいりました。

＊ ASCOJA (ASEAN Council of Japan Alumni)

- 1974年に故福田赳夫元首相(当時の大蔵大臣)の呼びかけで始まった、外務省招聘事業「東南アジア元日本留学者の集い」で交流を深めた各参加者たちが中心となり、ASEAN各国の元日本留学者同士の交流を目的として1977年6月に設立された。
- 元日本留學生が組織するASEAN各国の元日本留學生協会の連合体組織であり、各国において日本文化・日本語などの普及活動を、日本大使館と連携しつつ実施している。
- 現在の加盟国は、ASEAN10カ国である。(インドネシア、マレーシア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ミャンマー、カンボジア、ベトナム、ラオス)

組織・運営

(1) 理事会

- ① ASCOJA加盟国10カ国より各国1名の理事、及び日本側の顧問・理事によって構成される、最高意思決定機関である。
- ② 事業計画案、予算案、事業報告及び収支決算報告等を審議するため、年に2回開催される。
(うち1回は書面審査)

(2) 事務局

- ① 事務総長は理事会により任命され、事務局は、事業計画案、予算案等を作成し、理事会の承認を得て実施する。

＜事務局の構成＞

事務総長 佐藤次郎 ((一財)日本語教育振興協会理事長)

専任職員他 5名

- ② 事務局は、独立行政法人日本学生支援機構東京日本語教育センター(東京都新宿区北新宿3丁目22番7号)に設けられている。

<理事会名簿> 第10期：2018年4月 ～ 2020年3月

顧問	田島 高志氏	元駐カナダ特命全権大使 元駐ミャンマー特命全権大使
日本理事	小川 郷太郎氏	元駐カンボジア特命全権大使 元駐デンマーク特命全権大使
インドネシア理事	ヒデキ・アマンク氏 Mr. Hidekie Amangku	インドネシア元日本留学生協会(PERSADA)事務局長
マレーシア理事	シアウ・クアン・リン氏 Dato Dr. Siow Kuan Ling	マレーシア元留日学生協会(JAGAM)副会長、 元同会長
フィリピン理事	パウエル・デル・ロザリオ氏 Mr. Powell A. Del Rosario	フィリピン元日本留学生連盟(PHILFEJA)副会長
シンガポール理事	イー・ジェンエン氏 Mr. Yee Jenn En	シンガポール留日大学卒業生協会(JUGAS)会長
タイ理事	プッサディー・ナワウィチット氏 Ms. Bhusdee Navavichit	タイ王国元日本留学生協会(OJSAT)会長
ミャンマー理事	ミョー・キン氏 Prof. Dr. Myo Khin	ミャンマー元日本留学生協会(MAJA)会長
カンボジア理事	ブテイ・モニラ氏 Dr. Vuthy Monyrath	カンボジア元日本留学生協会(JAC)会長 ASCOJA議長
ベトナム理事	ゴ・ミン・トウイ氏 Dr. Ngo Minh Thuy	ベトナム元日本留学生協会(JAV)会長
ラオス理事	パンヤ・チャントボン氏 Mr. Panya Chanthavong	ラオス元日本留学生会(JAOL)会長
ブルネイ理事	ナジミナ・ファイルーズ・アブドゥル・ラティフ氏 Ms. Hajah Najmina Fairuz Binti Haji Abd Latif	アスジャ理事会議長 ブルネイ元日本留学生会(BAJA)会長
事務総長	佐藤 次郎氏	(一財)日本語教育振興協会理事長



写真：第30回アスジャ・インターナショナル理事会

事業内容

(1) 留学生支援(交流事業)

オリエンテーション及び歓迎会(2000年度より実施)

アスジャ設立趣旨、アスジャ事業の理解を深め、留学生同士の交流を図る。

国際理解教育(2000年度より実施)

アスジャ国費留学生の自国文化、習慣を紹介し、日本人児童・生徒との交流を図る。

ホームステイ(2000年度より実施)

新入生を対象に約1週間の日本人の家庭生活を通じ、日本文化、生活習慣を体験し理解する。

日本文化体験(2004年度より実施)

日本の伝統文化(歌舞伎、能楽、茶道等)に触れる機会を設け、日本文化の理解を深める。

地方産業文化体験(2015年度より実施)

アスジャ国費留学生の2年生、3年生を対象に、3泊4日で地方に出かけ、日本の企業見学・企業と学生のマッチング、地方文化体験等を行い、日本理解を深める。

アセアン祭り(留学生自主事業)(2003年度より実施)

アスジャ国費留学生による企画、実施の事業。自国の概要、料理、民族衣装等を日本人や他の留学生たちに紹介する。

修了式及び活動報告(2000年度より実施)

アスジャ国費留学生としての修了式と留学生より研究成果等の発表等を行う。

アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップ(2014年度より実施)

アスジャ国費留学生と日本の大学生が宿泊交流を通じ、お互いの国の文化や日本とアセアン各国の課題や協力について英語で意見交換を行い、相互理解を深める。



能楽体験@杉並能楽堂



日本人大学生との国際交流ワークショップ



地方産業文化体験@毛越寺

(2) ASCOJA各国元日本留学生会の活動の支援

① 留学生会指導者等の招聘

毎年東京でアスジャ理事会を開催する。また、理事会開催期間中にASCOJA幹部会開催の支援を行う。

② ASCOJA総会、ASCOJA幹部会への参加

毎年開催されるASCOJA総会及びASCOJA幹部会に参加し、ASCOJA各国元日本留学生会と連携を深める。

(3) アスジャ・ASCOJAネットワーク強化支援

① オンライン・プラットフォーム

アスジャがASCOJAとの一層の連携協力を図っていくとともに、ASCOJAネットワーク強化の支援のため、2015年度よりアスジャのサイト上でASCOJA関係情報を掲載する。

② アスジャ・ASCOJA分野別シンポジウム

人材交流、ビジネス交流等の分野別シンポジウムを、アスジャ・ASCOJA・開催国元日本留学生会との3者共催で、2015年度より実施している。



写真: 福田康夫元内閣総理大臣、堀井巖外務大臣政務官を迎えて開催された第23回ASCOJA総会@ブルネイ・ダルサラーム国



写真：2017年度開催のワークショップより

参加者の感想

* 日本人大学生の所属大学名は参加当時

立花 慶さん(上智大学)

プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。

私がこの事業を通して主に二つの成果を得ました。

一つ目は、積極性です。今回の交流事業を通して非常に数多くのことを学ぶことが出来たため、今後も同様の機会が合った際に積極的に参加したいと思うように至りました。

二つ目は、学習意欲です。ASEAN諸国の学生との議論を通して自分の世界諸問題の知識の不足を実感するに至りました。それによって、現在、大学生活においてあらゆる分野の勉強に対して以前より熱が入るようになりました。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

主に二つあります。

一つ目は、グループワークで作業をしている際に、各人が自分の役割をしっかりと認識していたことです。私のグループでは、ネットでデータを探す人、議論を仕切る人、SWOT分析を行う人など役割分担が明確になされていました。私は、積極的に意見を発言することに徹していました。この経験は私にとって自分の強みを作る必要性を認識するきっかけとなり、大変印象深いものでした。

二つ目は、議論中に感じたASEANの国々の学生の母国を想う気持ちの強さです。彼らと議論している際には常に母国の経済状況を良くしたいという強い気持ちが感じられました。母国の抱える問題について良く把握していますし、それに対する意見や解決案を各自が持っていました。私は、ASEAN諸国の抱える問題、また、日本の抱える問題について知識を蓄える必要性を感じることができたため、非常に有意義で印象深い経験だと感じました。

次回参加する日本人学生へのメッセージをお願いします。

私は、参加する日本人学生には積極的に議論に参加してもらいたいと思います。どれだけ積極的に議論に関わることが出来たかで、成長度合いが左右されると思います。英語が得意でなくても、説得力のある人には皆真摯に耳を傾けますし、また話そうと努力する過程で英語力の上達を実感できると思います。

私はこの交流事業終了後に日本人参加者と感想を共有したのですが、各人が何らかの学びを得ていました。英語力向上の目標が出来た人もいましたし、何事にも積極的に取り組むことの大切さを学んだ人もいました。是非とも積極的に議論に参加し実りある交流事業にしてもらいたいと思います。

石野 恵理さん(東京外国語大学)**プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。**

ASEANからの留学生と、ASEANの将来や日本との関係を考える機会は大変貴重でした。私は外大でインドネシア語を専攻していて、ASEAN10ヶ国からの留学生と意見を交換できたことが興味深かったです。どうしたらASEANが発展できるのか、というテーマ一つにしても、留学生と日本人学生では視点が異なっていたり、一緒だったり、今後専攻のインドネシアをはじめASEANを学ぶ際に、彼らの様に様々な視点から見ていきたいと感じました。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

最終日のプレゼンテーションでの質疑応答についてです。日本がASEANへのODA援助を積極的に行っていることに関して議論になった時のことでした。そのとき、ASEANの留学生が、「ASEANは日本からODA援助を受けられて助かっている。もし今後もその援助を受けられるなら有難い。しかしそのお金はあなたたち日本から出ているのだから、本来はASEANへのODAのためではなく、日本のために使える。日本のみんなはどう思うか。」と尋ねられました。日本人としてどう考えるか、ということを求められたと感じました。ASEAN、日本両方にとってどう関係を良い方向にしていけるのか、もし金銭面が求められるなら何が正しい判断なのか、両方の立場から考える必要があると感じた瞬間でした。

次回参加する日本人学生へのメッセージをお願いします。

ASEAN諸国からの留学生と共に学べる機会はなかなかないです。私は大学でASEANを中心に学んでいるので、彼らとディスカッションやプレゼンテーションをして、とても刺激になりました。ASEANにもともと興味のあった人はもちろん、そうでない人も、自分の視野が広がるきっかけになると思います。交流会もあり、留学生も日本人学生も楽しく親交を深めることができました。



鈴木 万葉さん(千葉大学)

プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。

この事業に参加する前から英語で行われる授業を取ったり、留学生と友達になったりして英語に触れ、話す機会はありませんでしたが、なかなか慣れませんでした。この事業に参加して、24時間アスジャの学生と一緒に生活することでずっと英語を話さなければならない環境に身を置くことができ、英語を話すことを躊躇わなくなりました。今では、英語で日本人と話すと、外国に行ってたんですか？とよく聞かれます。外国どこか飛行機にも乗ったことがないですと答えると驚かれます。英語はもう話せるものだと思いで思い込んでどんどん使っていこうと思います。英語でのディスカッションは大変でしたが、予備知識があれば単語しか聞こえなくても理解できるということがわかり、語学はもちろん自分の専門分野の勉強にも力を入れようと思えました。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

ディスカッションの時わからなそうな顔をしていると、アスジャの留学生が分かりやすいように言い直してくれたり日本語を交えて説明してくれたりして助けてくれました。嫌な顔をせず私たちを置いていかないでちゃんと議論に参加できるように配慮してくれる温かい気持ちが伝わってきて嬉しかったですし、そういう態度を見て私ももっと彼らと分かり合いたいという気持ちになりました。また、彼らと仲良くなりすぎて一緒にいることが当たり前になってしまい普通に日本語で話かけてしまうなんてことが多々ありました。日本語がわからない子なのに伝えることもありました。友達になるのに言語も国籍も関係ないと思いました。

次回参加する日本人学生へのメッセージをお願いします。

英語を話せるようになるには外国に行かないといけないなんて嘘です。実際、私はこの夏1か月留学に行った友達よりも英語が話せる自信があります。それは、留学では日本人の留学生同士でいることが多く現地の学生と触れ合う機会が少ないのに対し、このプログラムはかなりアカデミックな内容のディスカッションが多くをしめていたからです。日本で合宿なんて意味ないと思わず参加すべきだと思います。アスジャの留学生はとても優しいです。英語の能力より必要なのは分かり合いたいと思う気持ちです。英語力なんかよりも大切なことを見つけることができるプログラムです。もちろん、参加する姿勢によりますが、頑張ってください。

手代木 秀太さん(群馬大学)

プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。

出身地域が異なると、政策や慣習に対する捉え方が大きく異なってくる。その様な多彩なバックグラウンドを持つ人々と、日本・ASEAN諸国がWin-Winの関係を得ることが出来るプランを考え、発表したことで、互いの持っていない部分を共有し、幅のある思考力を養うことが出来た。

また自分の専門である医学のフィールドに限らず、芸術や、経済など様々な視点を持った人々と知り合いになれたことで、今後自分の専門の枠を超えた発想をする契機にもなったのではないかと考える。貴重な友人づくりの場にもなった。

他にもビジネスの現場でのプレゼンを経験してきたASEAN各国の友人から、英語でのプレゼンテーションの方法論のアドバイスを貰ったことは貴重な経験であった。日本語で学生が行うプレゼンテーションとは一味違った間のつなぎ方や、独特の理論の構成の仕方を間近で体験し、発表を共に作り上げることが出来た。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

プロジェクトを考える際に、自分は日本の保険制度をASEAN諸国に導入することを考えたが、石油マネーによって医療費が無料である国があったり、国民が医療にかけたいと思う費用や質の違いが見られたりしたことが印象に残っている。日本とASEAN諸国間の差異だけでなく、ASEAN域内の国々でも医療制度に対する捉え方は異なり、一律の基準を設けることの難しさを感じた。この経験からは、自分の不勉強さを痛感すると同時に、自分の考える自国制度の長所が必ずしも広く世界に甘受されるものではないということを学んだ。いかに制度の優れている側面を異なる価値観を持つ地域に、分かりやすくメリットとして示すことが出来るのか。これは非常に難しい問題だと感じた。また一方で、自分が制度の長所と考えている点は果たして本当に長所であるのか、そんな疑問が惹起されより深く学んでみたいとも感じるようになった。

最終的には我々の提案するプロジェクトは食を通じた文化交流になったが、その中でも互いの文化や食に対する姿勢の何が双方にとっての利点であるのかが、宗教や国の経済力、食文化の知名度によって異なっており、非常に印象に残っている。

次回参加する日本人学生へのメッセージをお願いします。

日常会話の英語を磨くことは、英会話教室や英語でのドラマを視聴することで向上することが出来ますが、学生時代に英語でプロジェクトを考え、ビジネスの様に発表するという経験はこのプログラムに参加しない限りなかなか得ることの出来ないものであると思います。

またASEAN諸国を代表する優秀な皆さんや高い意識を持った日本人大学生と交流するまたとない機会です。このプログラムは自分の将来の糧となるだけでなく、非常に楽しい夏の思い出になるものでした。是非参加されることをおすすめします。

宮本 啓さん(早稲田大学)

プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。

この事業を通じて3つの成果を得ることができました。1つ目は、グループリーダーを通じて得た、他人を配慮する力です。プレゼン準備中では、話し合いの方向性を決め、またメンバー全員が常に共通認識を持つように努めました。例えば、留学生が話す複雑な英語を、英語が苦手な日本人に日本語で説明してあげたり、日本人が複雑な説明をしたいときに、それを留学生に英語で説明してあげたりといったことです。2つ目は、ASEANと日本の関係へのさらなる興味、関心です。プレゼンテーション大会を通じて、ハラルフードしか食べられないイスラム教信者への日本の対応策や、ASEANと日本でのフードオリンピック、日本で働くASEANからの外国人へのビジネスマナー講座など、興味深いアイデアを知ることができました。これにより、「この先、急成長していくASEAN諸国と日本の関係をよりよくするにはどうすればよいか」ということを、自分の中で自然と考えられるようになりました。3つ目は、留学生の、大学での勉強への熱心さや、大学卒業後のキャリアプラン、将来の高い目標などを聞いたことで、自分の未熟さを痛感できたことです。それにより、私も皆に劣らず、自分の目標に向けて突き進んでいこうという気持ちを強く持つことができました。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

印象に残ったのは、体育館でプレゼンテーションのグループメンバーでレクリエーションを行ったことです。その時までは、プレゼンの進捗具合などを不安視して、グループ内にあまり良い雰囲気が流れていなかったような気がしましたが、レクを通じてお互いに笑いあったことで、グループでの仲が良くなり、その後のプレゼン準備の雰囲気が明るくなったと思います。

次回参加する日本人学生へのメッセージをお願いします。

ASEAN諸国の友達が欲しい方、外国人とのグループワークを通して自分の発言力やディスカッション能力を高めたい方、楽しく国際交流をしたい方、自分の英語力を上げたい方、留学生が持つ高い目標や野心などに刺激を受けたい方などには素晴らしい企画だと思うので、ぜひ参加していただきたいと思います。英語力が全くなくても参加することはできますが、私個人の意見としては、英語が喋れた方がコミュニケーションも円滑にとれるし、英語がしゃべれないよりは絶対的に楽しいので、参加前に英語力を鍛えておくことをお勧めします。また会議中は、己の挑戦の場だと思い、ミスを恐れずにどんどん積極的に発言をしてください。英語が拙くたって構わないです。伝わらなかったら、もう1度丁寧に伝えればいいんです。プレゼン中も、自分に自信をもって、堂々と前に立ってスピーチした方が良いです。このイベントは、将来の自分に向けた準備イベントです。失敗したとしても誰もあなたを責めないし、なんのデメリットもありません。何もやらずに、失敗経験も成功経験も得られないことが一番もったいないことなので、とにかく自発的に動いてみましょう。がんばっている姿を見せれば、周りも協力してくれます。来年、より多くの日本人が参加してくれることを願っています。

岡島 あすかさん(千葉大学)

プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。

文化、専攻、考え方、バックグラウンドが違うメンバーとディスカッションを続け、プレゼンテーションを作っていく中で、多くのことを学ぶことができました。私たちが提案する施策をサポートするために必要なデータがなかなか見つからず、困っていた時、そのデータを探すための違ったアプローチを教えてください、このような探し方もあるのかと気づきました。また、自分の専攻に関わる「農業」もテーマとしたため、自分の学んでいることを、農業について学んでいない人にも分かり易く伝えることの難しさを強く感じ、今後は学んだことを誰かに伝えることを前提としたインプット、アウトプットに、力を入れていかなければならないと痛感しました。このワークショップを通して、改めて自分の立ち位置を把握し、今後、どのような力を身につけ、意識していく必要があるか学び、次への一歩となる貴重な機会になりました。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

議論が活発になり、一部が話し合いについていけなくなると、一度止まって全体を確認して、みんなが議論に参加できるように、「それぞれがゆっくり話すこと。分からない部分や何か意見があったら、話している途中でもいいから、言ってね」とみんなで考えを出し合って、グループ全員で考えをまとめていこうとしてくれたことが嬉しく、このメンバーと共にプレゼンテーションに向けて一生懸命取り組むことができ、良かったと感じました。常に互いに助け合い、伝えたいことをうまく伝えられない時は、周りが「こういうこと？」と言い換えてくれ、何度も辛抱強く私の言葉を理解しようとしてくれました。相手と真正面から向き合って伝えようとすれば、言葉の壁も関係なく、伝わるということが分かり、恐れる必要はないと分かりました。

次回参加する日本人学生へのメッセージをお願いします。

英語をうまく使えず、十分にコミュニケーションがとれるか不安に思う方が多いと思います。私自身、参加前はどんなことをやるだろうかという楽しみに思う気持ちもありましたが、不安の方が大きかったです。しかし、参加してみると、学ぶことが多く、思った通りに行かないときは、いつもグループのメンバーが助けてくれたため、不安より、考えをしっかりと伝えたいという思いの方が強かったです。伝えたいことがあれば、「理解してもらえるかな、きちんと伝わるかな」と心配になって、伝えることを諦めるのではなく、とにかく言葉を発することが重要です。その思いがあれば、誰かが必ず耳を傾け、一緒に伝えようとしてくれるはずです。私も、最初は言いたいことがあっても、なかなか言葉にすることができませんでしたが、勇気を出して伝えてみると、周りのみんなが優しく受け止めてくれました。恐れずに、一声だせば、その思いは伝わるので、まずは声を出して、自分の考えを外に出すことが大切であると思います。周りの優しさを感じながら、多くのことを学び、考えることができる素敵な国際ワークショップです。できるだけ多くの人と触れ合い、それと同時に、自分自身と向き合う貴重な機会になることを祈っています。

中村 優さん(上智大学)

プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。

この事業を通して、様々な国や大学、専攻の人たちと協力して一つの事を成し遂げられたという自信を得ることが出来ました。ワークショップの初日は初対面ということもありなかなか話し合いが進まず、良いプレゼンテーションを作り上げられるのだろうかと少し不安になりました。しかし、だんだんと皆で意見を言いやすい雰囲気を作っていき、それぞれの経験から学んだことをグループ全体で共有し、少しずつプレゼンテーションの準備を進めることが出来ました。そして最終日にプレゼンテーションを終え、様々なバックグラウンドを持つメンバーと一丸となって目標を達成できたという自信を得ることが出来ました。

また、今回の事業ではアセアン諸国の留学生や日本の他の大学生とのネットワークを構築することが出来ました。ワークショップの後にも個人的に連絡を取り合っており一緒に出掛けたり食事に行ったりして、交流が続いています。かけがえのない仲間を得ることが出来たと思いますし、私たちの友好関係が今後の日本とアセアンのより良い関係に繋がっていくことを望んでいます。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

印象に残ったエピソードは、プレゼンテーション発表前夜にグループで集まって発表の準備をしたことです。準備は夜遅くまでかかってしまいましたが、全員が良いプレゼンテーションを作りたいという思いで一生懸命準備をしていたと思います。発表の前日の夜、公式の活動の時間内にプレゼンテーションのリハーサルをする時間を取れなかったため、自主的に集まって発表の練習をしました。皆かなり疲れている中でしたが、このリハーサルの時間は、チームが一丸となっているということが一番感じさせてくれる時間でした。この時間があつたからこそメンバーの団結力が高まり、本番のプレゼンテーションの成功へとつながったと思います。

次回参加する日本人学生へのメッセージをお願いします。

もし参加をするかどうか迷っているのでしたら、是非参加していただきたいと思います。二泊三日と言う短い時間ではありますが、アセアンの諸国や他の大学の日本人学生と、有意義で濃い時間を過ごすことが出来ると思います。また、このワークショップは普段の大学生活では出会えない人たちと出会うきっかけにもなりますし、ワークショップ後も一生の友人として付き合える人たちに出会えるかもしれません。私はこの事業への参加は二度目でしたが、二回とも「大変だけど楽しかった！」と言える、いい経験となりました。是非みなさんにとっても大学生活の中でかけがえのない経験になればいいなと思っています。

写真：過去に開催されたワークショップより



アルメイン・ヤピュコさん(アスジャ・フィリピン国費留学生・東京藝術大学大学院)

この事業で、日本の大学生と交流して、日本や日本人に対するイメージはどのように変わりましたか。

I learned about the perspective of the Japanese university students and my fellow ASEAN representatives in relation to ASEAN. I received a more in-depth perspective of the needs of countries from the perspectives of those who are actually from those countries--for example, issues tackling disaster-preparedness, waste or garbage management, boosting tourism, education systems, population issues, health issues, and much more. We often have our own pre-determined views of what other countries are like, and this program became more of an eye-opener of what we can learn about other countries under many different aspects and how we can further develop the relations of those countries.

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

What impressed me the most was the group presentations--the entire process from brainstorming, collaborating, delegating tasks, executing our ideas into power point presentation format--it surprised me how easy it was to work with a group of people coming from different countries. Despite slight language barriers, I was impressed with academic level of the members of the group, and how we were still able to pool our ideas together in order to form it into a cohesive presentation.

Aside from that, it was also good to hear different points of views on one topic, since we are working together with new people that come from other countries--people of different backgrounds, expertise, and experiences.

将来、日本と自国、日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーとなるために、この事業で学んだことはどのように役に立つと思いますか。

The things that I learned from this program helped me looked deeper into several aspects of the relationship between Japan and ASEAN because I was able to hear it from representatives of such countries as well. Examples of such aspects are health issues, disaster-preparedness, urban planning and transportation, education system, culture and tourism boosting, and the like. Learning about ASEAN and Japan in such an in-depth discussion method has helped me learn about the real needs of each country and possible methods that can help remedy such needs. It might not be quick solutions since these all tackle large scales, but it has helped us form ideas that can possibly be proposed in the future to related entities in order to respond to the raised issues under those different aspects.

ソンプー・ニョッドマニーさん(アスジャ・ラオス国費留学生・東京工業大学大学院)

この事業で、日本の大学生と交流して、日本や日本人に対するイメージはどのように変わりましたか。

数年前の日本人の大学生と比べてみたら、大きく変わったのは英語力と外国人との接し方だと思います。私が2007年に最初に留学した時には、英語ができる子はほとんどいなかったし、留学生とは積極的に交流したがない子が多かったです。今の大学生達はほとんどが上手に英語が話せるし、留学生と抵抗なく楽しく交流ができると感じました。まさに今はグローバルゼーションだなあと感じました。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

私にとって印象に残ったのは、メインのディスカッションではなく、日本のラジオ体操についてです。普段はあまり大事だと思われませんが、実は日本のいい独特な習慣の一つであり、昔から今まで学校や会社や公園などでもよく行われており、深い歴史的なものです。留学生にもあまり知られていないし、日本人の若者も忘れていそうな習慣だと思います。今回のように日本人の若者に教えてもらって一緒にやるのは彼らにとっても復習になるし、私達にとってもいい体験になりました。できれば、軽い感じではなく日本人が本格的にやっているような感じでその本物の大変さと厳しい訓練を体験した方がいいと思います。このラジオ体操はアスジャの各事業に取り入れて、事業期間中に毎朝活動の前に行うのもアスジャの独特な習慣の一つとして面白いかもしれないと個人的に思います。それに、みんなが輪になり足を合わせて一斉に立ち上げるゲームもチームワークの性質が実感できてとてもよかったと思います。

将来、日本と自国、日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーとなるために、この事業で学んだことはどのように役に立つと思いますか。

この事業で日本人学生とアセアン学生が同じグループになり、ディスカッションをしながらあるテーマについて発表したことによって、意見交換もお互いの考え方もある程度理解できるようになりました。今後もこのように何かのプロジェクトについてやる時には、お互いに意見を自由に出し合って、お互いの考え方を尊重しながら良い結論を出すことが大事だと感じました。また、グループの中であまり意見を言えない人には相手に聞く姿勢を示しながら質問する形などのフローをするのも必要だと思いました。最後に、忘れはいけないことは、いつも冷静に強い喧嘩なく平和に話し合って結論を出すことだと思います。私達のグループはもめることなく平和にディスカッションができてよかったです。リーダーになるためにはみんなにとって公平か平和かなども考えながら行動するのは大切かもしれませんが、私もまだまだですが、少しずつ訓練していこうと思います。

マービン・アン・ケット・シオンさん(アスジャ・ブルネイ国費留学生・一橋大学大学院)

この事業で、日本の大学生と交流して、日本や日本人に対するイメージはどのように変わりましたか。

私は昔から日本人大学生と接触する機会が国にいる時たくさんありましたので、以前からの日本人の印象はほぼ変わらないと思います。一般的な日本人はみんな優しい人々です。しかし、日本人はある癖があります。それは外国人と外国語で話すのが苦手なことです。しかし、一年以上外国に住んだ人で、緊張せずに私たちと最初から英語で会話する人もいます。私のグループの日本人大学生は、最初上手く話せる人は二人しかいなかったけど、お互いをもっと理解して仲良くなった瞬間に、みんな英語をだんだん使い始めました。作業をする時はみんな真面目で自分の役目を果たす人たちです。私にとって、この事業で一番良かった点は新しい友人関係を得られたことです。なぜなら、今でも時間があれば時々私たちアスジャ生は日本人大学生と一緒に出かけるからです。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

一番印象的なエピソードは公式の活動が終わった後のお茶会です。この三日間の活動はとってもスケジュールがタイトで、あまり会話する時間がありません。深夜までアスジャ生と日本人大学生は一緒に残ってお互いもっと仲良くなるために様々なことを話しました。私たちはまるで幸せな家族みたいだと私は感じました。お互いの悩みを心配せずに話せます。それだけでなく、自分たちの発表したい内容について他のグループの人たちの意見を取り入れることもあります。この時の私は自分の国にいる友人たちのことを思い出しました。私たちも良くこのようなお茶会をして様々なふざけた話をしました。次のワークショップはもっとゆっくりしたペースで三泊四泊ぐらいの弁論会の設定を提案したいと思います。

将来、日本と自国、日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーとなるために、この事業で学んだことはどのように役に立つと思いますか。

この事業で学んだことや経験は将来日本とアセアン諸国の新しいプロジェクトにつながるかもしれません。そして、この事業を通してアセアンの十か国の中にブルネイをよく知る日本の大学生は一人もいないことが明らかになりました。そもそもブルネイに関する情報はほとんどありませんと日本人大学生が言いました。だから、まずブルネイの情報を日本人にもっと公開しなければなりません。お互いの国の政治的な関係をもっと強くするために、まずは国民がお互いの習慣、宗教、文化などをもっと理解することが必要です。日本だけでなく他のアセアン諸国のことも学ぶ必要があります。

オー・クアン・イーさん(アスジャ・マレーシア国費留学生・群馬大学)

この事業で、日本の大学生と交流して、日本や日本人に対するイメージはどのように変わりましたか。

この事業に参加するのは三回目になります。これまでの活動に振り返り、グループの話し合いにおいて、自分の意見をちゃんと言い出して、また他人の意見を受け入れることはとても大事なことであったと学びました。今回ではどのグループにも参加せず、サブファシリテーターとして各グループの進行を確かめ、必要に応じて助けに入ることになっています。最初から積極的に話し合いを始めるグループでは話し合いの進行がスムーズに行われるという印象を受けました。その反面、意見がなかなか言い出せない場合、グループ全体をまとめるのに、かなり時間をかかりました。このことから、意見を述べられるようにすることの大切さを学びました。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

夕食の交流会に私に話しかけてくれた日本人の大学生がいました。彼はマレーシアのことにすごく関心があり、私にいろいろ聞いてくれましたが、情けないことに、彼の質問に対して、私が答えられなかった質問もそれなりにありました。また、答えられた内容に関しても、私が知っているマレーシアの一面に限る話でしたから、彼にちゃんと説明できたのかどうか不安でした。このことから、私にはまだマレーシアについて知らないことが多いと感じていました。今後はこれらの問題に答えられるように、マレーシアに帰る時はいろいろと気を配るつもりです。同時に、彼がマレーシアに関心を持っていたことから、とても嬉しく感じました。

将来、日本と自国、日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーとなるために、この事業で学んだことはどのように役に立つと思いますか。

この事業は日本人と交流することだけでなく、最終日の発表に向けて、グループ内で役割分担を行って、情報収集もして、パワーポイントなどを作ります。今回は前回参加した経験を生かして、各グループが話し合いをするときにアドバイスや助言をすることになってます。そうしているうちに、私は経験の大切さを思い知ることになりました。また、経験がある人がその経験をきちんと後輩に伝えることも大切なことであると気づきました。良いリーダーになるために、いろいろな資質は求められているが、先人たちの教えに耳を傾けて、彼らの経験を糧に学ぶことも大事だと考えるようになりました。将来、日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーとなっていたら、これらの経験を生かしていけたら良いと思います。

写真：過去に開催されたワークショップより



ユン・リンダさん(アスジャ・カンボジア国費留学生・筑波大学大学院)

この事業で、日本の大学生と交流して、日本や日本人に対するイメージはどのように変わりましたか。

この事業を通して、私が学んだこととしてチームワークが成功するために大切な要素について記述する。まず、チームワークが成功できるために全員のメンバーがそのチームワークの目的を知る必要だということ。例えば、与えられたアセアンと日本のウィンウィン対策のテーマをまず理解すること。理解した後、グループのメンバーが自分の意見を積極的に出すことが大切だ。小さな思いついたことでも、他の意見を引き出させる大切なポイントになるかもしれない。例えば、私のグループはFacebookの話の利用率から相次いでそれぞれの意見を出し、話し合い、最後にグループの目的を向けて一つの行き方が決められた。次に、メンバー能力を応じて仕事分担をすること。そこはリーダーに任せより、メンバーが自ら自分のできることやりたいことを言い出すのは効果的に仕事分担できたと思う。その上、チームワークにはグループのコミュニケーションが不可欠なものだ。例えば、今のこの部分の仕事は問題が発生するときに、急速に対応でき、全体の仕事も円滑に進められる。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

活動中、印象に残ったエピソードは仕事分担の後、みんなそれぞれの仕事をするエピソードだ。やはり、チームワークにコミュニケーションは不可欠なものだ。例えば、時々それぞれの国の情報が必要になった部分にはちょっと皆さんの時間を借り、質問をし、情報を得る場面もあった。それに、計画作成の仕事には間に皆さんからコメントをとったり、訂正したり、したのもあった。そして、みんなが仕事に夢中をしすぎ、疲れそうになった時には、リーダーか誰かが「ちょっと休憩しようか」と冗談などを言い出したエピソードもあった。確かに、ずっと仕事を集中するのは効果だとは言えないのだ。そこが目的に一緒に頑張りながら、グループの暖かさも感じた。

将来、日本と自国、日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーとなるために、この事業で学んだことはどのように役に立つと思いますか。

将来、日本と自国、日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーとなるために、この事業で学んだことは様々な形に役に立つと思う。その中に、二つのポイントを挙げたい。

一つ目は、グローバル化に対応できる人材を育てる一つの方法として、この事業は見本になり、母国でもこのような事業も実施することができる。例えば、スポーツ活動があったり、プロジェクトを作成するアセアンと日本のチームワークがあったりする国際交流ワークショップがカンボジアでも開催することなど。

二つ目は、この事業で日本と自国、日本とアセアン諸国のネットワークが作られたことで、将来に教育的・経済的な・政治的な仕事などを一緒にする可能性が出てくる。例えば、上の例を実施するために、このネットワークを利用する。

以上、この事業はロールモデルになり、作られた日本と母国・日本とアセアン諸国のネットワークを使って国際的な仕事ができるという形に将来日本と自国、日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーになるのに役に立つと思う。

サイモンティー・ポンパサートさん(アスジャ・ラオス国費留学生・京都大学)

この事業で、日本の大学生と交流して、日本や日本人に対するイメージはどのように変わりましたか。

リーダーシップについてより深く考えることができました。リーダーはチームをうまく前に引っ張る役割です。しかし、そのやり方はそう簡単ではありません。自分のグループと他のグループを観察した結果、次のようなことがわかりました。縦の関係では、団員がいつも長の命令に従わなければならないと思い、イライラ働くようになって、結果が上がりにくい。それに対して、横の関係では、各員が平常心を持ちながら、やる気満々で働き、とんとん拍子に仕事が進む。本当のリーダーはメンバーに対して命じることにこだわるのではなく、各員の自主性を尊重して陰ながら見守る、または、必要なら参考のレベルでチームを導いていかなければならない。この事業は、まだ若くて経験の少ない私には本当に先生のように色々教えてくれました。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

まだ話していないけれど、オリセンに着いた時、みんな強い意志が顔に出ていて、すごいなと思いました。ずっと4日間見られたのは、日本人学生とアスジャ生が一丸となった光景です。見も知らぬ人同士であるにもかかわらず、課題を与えられたら、同じ目的を達成するために、早く親しくなり、一生懸命力を注いでいるシーンは忘れられません。みんなどんなに疲れても、責任を持って諦めずに最後まで使命されたことをちゃんとやっていた。こんなエピソードが印象に残りました。完璧とは言えないまでも、一緒に頑張って結局課題を果たすことができました。自分もその中の一人で、そんなに大したことではありませんでしたが、なんだか誇りに思いました。

将来、日本と自国、日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーとなるために、この事業で学んだことはどのように役に立つと思いますか。

日本と自国・アセアンのかけ橋というような雄大なリーダーになるためには、もっともっと経験を積まなければなりません。この事業で学んだことはほんの一部だけでした。しかし、(直接にリーダーとしての役割をしませんでしたが)、チームの中でリーダーを見習うことによって最も根本的なリーダーシップを身につけることができました。どういう風にチームの目的を立てるか、それをどのように達成できるか、どうすればチーム全員の意欲を掻き立てるかなどでした。小さな最初の一步ではありましたが、もう一歩前に踏み出すのは最初の一步がなければできないでしょう。この一歩が 将来学んでいくより具体的で複雑なリーダーシップの土台になって、必ず支えてくれると思いますので、きっと役に立つに違いありません。

デヴィナ・ハディナタ・ウィボウォさん(アスジャ・インドネシア国費留学生・大阪大学)

この事業で、日本の大学生と交流して、日本や日本人に対するイメージはどのように変わりましたか。

この事業に参加するのはもう2回目でしたが、この事業で日本の大学生と交流して、私の日本や日本人に対する興味をもう一度復活することができて、本当によかったと思います。去年ずっと外国人に囲まれた私は、今年の四月から新しい大学に入学して、日本人の友達を作ることがなかなかできなくて、困難しています。その理由は文化の違いであり、言葉の壁かもしれませんが、たまに悩みを感じたり、諦めたくなってしまうこともありました。しかし、この事業で会った日本人の大学生たちはとても親切で、話しやすかったです。短い間でしたが、友達ができた気持ちが出てきて、機会があれば、また会いたいと思います。この事業のおかげで、前向きに大阪に戻ることができてよかったと思います。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

活動中、私にとって一番印象に残ったエピソードは二日目に絵を描いた時です。私の思い出の中で、最後に絵を描いたのは中学校のころでした。小さい時からずっと絵を描くことが好きでしたが、高校生になったら、勉強が忙しくなって描く時間が無くなりました。アスジャの活動で久しぶりに絵を描かせられ、びっくりしましたが、嬉しかったです。しかも、チームメンバーと一緒にやっていて、とても楽しかったです。私も他の人と一緒に絵を描くことが初めてで、挙げられたテーマも結構不思議なので、どんな結果になるのかが全然わかりませんでした。しかし、知らない日本人の大学生たちと一緒に話し合っ、一緒に描くことができて、本当に良かったと思います。

将来、日本と自国、日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーとなるために、この事業で学んだことはどのように役に立つと思いますか。

将来、日本と自国、日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーとなるために、もちろん日本人の理解や日本と自国あるいはアセアン諸国の知識が必要です。この事業で、その両方のことを学ぶことができて、とてもよかったと思います。この事業で、たった三日間で現在における問題について日本人と話し合っ、お互いの意見を聞いて、一緒に解決策を探し、多くの人々に発表することは決して簡単なことではありません。しかし、これはどう考えても、私たち、アスジャ生として、自国について、他のアセアン諸国について、また日本についての知識を深める機会だけでなく、日本人の友達を作る機会でもあり、あまりにも貴重な経験です。将来、架け橋になると期待される私たちはもっと難しいことをしなければならないかもしれませんが、その時にこの経験を思い出せばと思います。

グアン・チャイ・ユーさん(アスジャ・マレーシア国費留学生・九州大学大学院)

この事業で、日本の大学生と交流して、日本や日本人に対するイメージはどのように変わりましたか。

この事業では私のグループに4人の日本人大学生がいました。4人のうちの3人が大学学部の1年生と2年生です。それに対して、アスジャ国費留学生等は大学院に在籍しています。年齢が離れているため考え方・やり方が違ってきます。日本人大学生等は自分の考えや発想を他人に伝えるのを控える傾向があります。この事業は大学4年次のゼミと同じで、すべてのことを自分自身の判断で決めないといけません。彼らがこの短い間に大学卒業生と同じ判断し、実践していく力を身につけるのは難しい。しかし、自らの発表の原稿を最後までつくってきた彼らの姿を見ると感動せずにはいられませんでした。発表会本番に向けて準備するため、発表の前日に日本人の大学生は誰よりも練習を重ねて努力しました。このような自己向上心と絶えまない努力する姿勢をみると、彼らの精神面での強靭さに驚きを隠せません。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

この事業で首都圏日本人大学生との交流を通して、日本に於いての英語教育をより一層理解できました。英語圏の国に留学した経験があり、語学を専攻する日本人大学生は英語を上手に話せるのは珍しくないものです。しかし、今度の事業で留学せず、語学系ではない日本人大学生等もよどみなく英語を話せることがかなり印象に残りました。彼らの共通点は彼らが都会の小中高等学校に就学していたことです。都会では留学生が比較的多いため、外国人との交流機会も多いのではないかと思います。高校時代にいろんな国際交流キャンプに参加してネイティブと英会話をした経験を持つ日本人大学生は緊張せずに自信を持って英語を話しています。その様子を見ると私は英語で十分コミュニケーションをとれる教育があれば英語への苦手意識を払拭できると思います。

将来、日本と自国、日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーとなるために、この事業で学んだことはどのように役に立つと思いますか。

2年前まだ新入生である私は第1回国際交流ワークショップに参加したことがあり、今度再び参加して日本人の皆様が参加している目的はそれぞれだと気づきました。このような討論会は多国籍企業の環境を模していると考えられます。教育環境による価値観・考え方の違い、メンバーの視点により提案したアイデアの相違は、グループ目標の達成を奥深いものになっています。また、私のグループは食文化との関係があり、気が合うテーマを選んだためスムーズに作業が進行できました。例えばメンバーの意見が不一致だとしても、全員が同じ方向を目指せばグループ自ら主体的に動く組織が出来ることは、グループ全員が私に教えてくれたことです。

ヒヤ・フェビエンさん(アスジャ・シンガポール国費留学生・京都大学大学院)

この事業で、日本の大学生と交流して、日本や日本人に対するイメージはどのように変わりましたか。

日本の大学生との交流は実り多いものになりました。現在私は大学院で研究をしていますけれど、学部学生と話す機会がありません。ですから日本の大学生と交流する前は学部学生の考え方が分かりませんでした。前に高校生との交流で若い世代の考え方や態度を理解できましたけど、彼らの先輩に当たる大学生はどんな希望や、夢などを持っているか、またどんな態度をとるかイメージできませんでした。第一印象は日本の大学生は少しシャイだということでした。ですが時間が経つにつれ、打ち解けて、段々楽しくなりました。ワークショップは英語で行われたから、大学生は難しいと思ったはずですが、一生懸命英語で話していました。いい態度だと思いました。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

ワークショップ中、多くの思い出に残るイベントがありました。例えばいろいろなグループパフォーマンスやラジオ体操です。その中で一番印象に残ったエピソードは、二日目の夜に午前1時までディスカッションをしたことです。眠い状態でコーヒーを飲みながら、発表のスライドを作って、プレゼンテーションスクリプトを書いて、けっこう面白いシナリオができたと思います。結局、皆寝不足ながらもちゃんと翌日の活動をやって、発表も成功しました。その様子から皆の真剣な取り組みが見えて、感動しました。今回のワークショップは素晴らしい経験でした。私たちは多くの国からの友達を作ることができました。

将来、日本と自国、日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーとなるために、この事業で学んだことはどのように役に立つと思いますか。

前回のアセアン文化祭典と同じように、将来のリーダーにとって、この活動はネットワークの構築と友達作りの良い機会となりました。重要なことは、ワークショップで、さまざまな研究分野の連携が容易になったことです。様々な専攻の学生が自分たちの知見を組み合わせ、それを具体的な提案に作り上げました。将来のリーダーにとってメンバーの強みを結集して、実行に移すことは重要なスキルです。さらに、多国間の関係が深まるように、将来のリーダーは、取り組み方やバックグラウンドがさまざまなメンバーと協力し、共通の目標に向かって進むのです。

日本の大学生と交流した三日間のワークショップは良い勉強になりました。来年もぜひつづけてほしいです。

写真：過去に開催されたワークショップより



キンサモン・スックウィサンさん(アスジャ・ラオス国費留学生・埼玉大学大学院)

この事業で、日本の大学生と交流して、日本や日本人に対するイメージはどのように変わりましたか。

日本の大学生と交流することによって、お互いにイメージも変わりました。私は最初は日本人の大学生は外国人留学生と交流するのはあまり得意ではないと思っていました。なぜかという、日本人の大学生は人前で意見をいうのは得意ではなく、恥ずかしがることが多いからです。けれども、お互いに時間をかけて、交流することによって、信頼関係も生まれました。それから、お互いに助け合うことで、相手の気持ちに共感できました。初めて会ったときは遠慮がちな日本人の大学生たちも、だんだん慣れるととても優しいです。友達が何か困ったときに、自分のことのように助けます。私はこの事業を通して、日本人の大学生に対してとてもいいイメージを持ちました。さらに日本人の大学生は礼儀正しい学生だというイメージも持ちました。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

活動中、印象に残ったエピソードは発表会の前に、みんなで一生懸命練習したことです。練習のときはお互いに誰が何ができ何ができないかを検証しながら、コメントし、直していきます。みなが納得できるまで練習を続けました。このことにより、それぞれを尊重しながら、相互理解も生まれました。お互いに信頼関係を構築することができました。また、もうひとつ印象に残ったエピソードは、運動会のことでした。交流会は普段はあまり交流したことがグループと交流ができて、良かったです。特にラジオ体操の練習のときは、簡単に見えますが、実際に自分でやってみたら、かなり難しいです。けれども、日本人の大学生に優しく教えてもらったおかげで、少しずつできるようになりました。

将来、日本と自国、日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーとなるために、この事業で学んだことはどのように役に立つと思いますか。

この事業で学んだことはコミュニケーション能力です。事業の最終日に発表会があるため、その前にみんな一生懸命に練習しました。どのようにしたら聞く人に伝わるかを考えました。いくら知識を持っていても、伝える能力がないと、自分の言いたいことが伝わりません。そして、自分の持った知識・自分の考えを他人に伝えたいとき、上手に伝えないとリーダーにはなれません。リーダーとは説得力を持つ必要があります。上手く人を説得して、自分が思った戦略・政策を行動してもらうのはリーダーの役割です。私は将来、日本と母国の架け橋のリーダーになるために、今のうちに、コミュニケーション能力を磨いて行きたいと思います。将来、人を説得する機会が増えるからです。

ブイ・チャン・ツングさん(アスジャ・ベトナム国費留学生・明治大学大学院)

この事業で、日本の大学生と交流して、日本や日本人に対するイメージはどのように変わりましたか。

Before participating in the program I have thought of Japanese students very differently. At first I think Japanese students are very study-oriented and introvert. Partly because I know that the Japanese University Entrance Examination is very hard and students must prepare a lot. However, the Japanese students I met during the Workshop were very nice, hospital and outgoing. They have traveled a lot in many countries in the world, experiencing several cultures. Also they are really happy that foreigner students are interested in Japanese culture. They have explained and taught me a lot about the Japanese modern lifestyle and how to make friends with Japanese people.

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

The most interesting part of the workshop must be the group discussion and presentation. In a very short time of only 2 days, we had to come up with a solution for a problem of South-east Asian life in Japan. We have chosen to tackle the Halal food. It was a very interesting yet hard topic as none of us are Muslim. However, we thought it was a very big issue that would improve the life in Japan enormously. The time was limited. We also had to work overtime for the project. Fortunately, at the end the final product was satisfying. Everyone was happy as the hardwork finally paid off.

将来、日本と自国、日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーとなるために、この事業で学んだことはどのように役に立つと思いますか。

The Workshop is the first time I interact with young Japanese people. I have learnt a lot about their ways of thinking. Also I have made a lot of new Japanese friends. These experience and relationship are very important in the future for me. Additionally, students from both sides, South-east Asian countries and Japan, have learnt a lot from each other about the cultures and people. This understanding will be very essential.

写真：過去に開催されたワークショップより



クンティアー・スレイソチェターさん(アスジャ・カンボジア国費留学生・東京大学大学院)

この事業で、日本の大学生と交流して、日本や日本人に対するイメージはどのように変わりましたか。

私はいつも日本が自然だけではなく経済も豊かな国だと思っている。何でも商売している新宿、渋谷、池袋に行くとき、自分の国がいつか日本と同じようになって欲しい。しかし、それはただ日本に対して一部の見方である。私はこの事業に参加しないことには、日本に滞在している諸外国人の困っていることが分からなかっただろう。事業でそれぞれの発表者はムスリムやアジア人向けの材料、食材などの問題について取り上げた。実は、自分がアジア料理を作りたいとき、アジア材料販売店を探してなかなか見当たらないが、その問題について気づかなかった。従って、この事業は自分に日本での問題を考えさせ、それにもまして日本がまだ豊かとはいえないだろうというイメージが変わった。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

活動中、私の心に残った印象は日本とアセアンの学生のやり方である。事業では日本人とアセアンの学生たちは発表しないといけないので、誰でも完璧に成果を出したかった。参加国を数えれば、11カ国の学生から出席したに違いない。その11カ国の準備方法は11の方法になるのではないかと考える。従って、私はその11の準備方法を学ぶようになって、非常に珍しい機会だった。私はカンボジア人となんらかの課題について協力したことがあるが、外国人とは初体験だった。諸国の学生はテーマやデータ収集などについて様々な意見を出し、道を右にまがっても、まっすぐに行っても、全部の意見は有利だった。諸国の学生から見習いながら最後までとても楽しく参加した。

将来、日本と自国、日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーとなるために、この事業で学んだことはどのように役に立つと思いますか。

将来、日本とカンボジア、日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーとなるために、この事業は以下のように役に立ったと考える。まず、日本、アセアン諸国と問題の考え出発点や解決方法について色々な意見を交換した。そのときをきっかけに、日本とアセアン諸国の問題を理解できて、自分の知識が広がっていくと思っている。次に、問題と解決法を考えながら、自国の代表として他国とどのように外交を上手く行うかについて体験した。意見を出すのは議論のときに不可欠なものであるが、他国の文化に何が影響を与えるか考える必要がある。それに加えて、自分自身は他国と協力して物事をどのように円滑に進むか新発見になったと思う。



写真：2015年度開催のワークショップより

この事業を通じて、この事業に参加するまで持っていなかった新たな視点を持つことができました。それまで日本とASEANも含めアジアでは、価値観や環境に置いて差がある事は、高校の歴史の授業やその他の実生活に置いて得た知識で頭では理解していました。しかしながら、実際にASEANの人達とこのワークショップを通じて話をしたり、共同でプロジェクトを進めるに当たって価値観や環境の差を体で実感しました。



食事や運動をする前のチームでは、お互いの事をあまり知らないと言う事もあり、テーマを決める話し合いにおいて、互いに遠慮し合ううまく話しが進みませんでした。しかしながら、食事や運動を一緒にした後の話し合いでは、活発な話し合いができました。このことを通じ、食事や運動を一緒にする事の重要性を身に染みて感じました。



私は、英語が得意ではありませんが、留学に行っている友人にこのワークショップを勧められ、参加しました。参加するまで、不安でいっぱいでした。英語で全く困らなかったと言うのは、嘘になりますが、私が英語が苦手という事もあり、これを伝えたいと言う時には皆が一生懸命耳を傾けて理解してくれたおかげで、さほど英語で困る事はありませんでした。なので、英語が苦手な人も恐れなくてください。



国の文化や環境の違う優秀な人達と一緒にプロジェクトを作っていくことは、ここ以外で体験できる事ではありません。英語というだけでこのワークショップを敬遠してしまうのは、勿体ないです。短い期間ですが、大変貴重な体験ができます。

参加者の感想(日本人学生)

1年生の頃に参加した際に、自分の至らなさを自覚し、3年生で参加した際には、また違う友人ができ、彼らからも学問としての学びだけでなく、学問だけでなく、全ての事に対する学ぶ姿勢というものを学びました。短期間でも参加するかしないかで今後の自分自身に対する姿勢も大きく異なってくると思うので、参加を迷っている方がいらっしゃったら、とりあえず参加を選んでいただきたいなと思います。必ず何か学ぶところがあるはずです。



最終日に発表するプレゼンは、4日間グループで一生懸命作り上げたかけがえのないものになります。自分にかけているところを実感させられ大変有意義な4日間になるので、留学や文化、英語、ASEANなど少しでも興味があったら参加してほしいです。

グループのメンバーは全員が異なる専攻であり、専門知識や能力がそれぞれ異なっていたのでそれらをうまく発揮するために工夫する力も得られたと思います。



プレゼン後のQ&Aは日本のスタイルとは大きく違い、鋭い質問や、批判的な意見なども飛び交い、非常に印象的だった。日本ではQ&Aの時間が静まり返ってしまうのをよく見かけるが、彼らは聞くときも常に何を質問するか、論理に破綻はないかなど冷静に批判的に聞いていたようである。この姿勢はぜひ見習っていきたいと感じた。

皆が議論していることに追いつこう、またそれを自分の中で整理しようとして、議論の最中、メモを取ることに必死になっていました。自分の中では、今回の議論で自分はあまり役に立てていないと思い落ち込んでいたのですが、あるときこのメモが皆のアイデアを整理する際に役に立った場面がありました。その際、あるメンバーが私のメモをこまめに取り姿勢を褒めてくれました。今まで自分ではメモを取ることが自然なことで、得意なこととしては認識していなかったのですが、その時初めて、これが人の役に立つ長所となりうるのだと気づくことができました。



こんなにも多国籍な人々と一緒に議論を尽くし、仲良くなる機会は滅多にない貴重なものだと思います。3泊4日基本的に英語ばかりを使用するので、へとへとなるのは確かです。しかし、こんなにも脳を振り絞って考えることを大学生である今のうちに体験することができて良かったと思います。



英語に自信がなくても、話そう・理解しようという気持ちがあれば心配いりません。しかし自分に甘えてはいけません。英語を使う良い機会ですのでそれを無駄にしないでください。正直、こんなに密度が濃く、頭を働かせた4日間は初めてでした。一人一人が最後のプレゼンへ向けて努力したからこそ、それをやり遂げたあとは皆達成感でいっぱいでした。一人ではなく皆でやり遂げたということに意味があると思います。



過去のワークショップの様子



過去のワークショップの様子





写真：2017年度開催のワークショップより

スケジュール

1日目 2018年8月30日(木)

午前	国立オリンピック記念青少年総合センターに集合
	オリエンテーション
	アイスブレイク : 参加大学生による自己紹介
午後	レクチャー 日アセアン関係について
	ワークショップについて説明 ①ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションのテーマについて ②ワークショップのスケジュールについて
	グループワーク ①ステップ1: テーマの理解と問題点の確認作業、グループ内での役割分担決定 ②プレゼンテーションのテーマと、グループワークの進め方についてプレゼンテーション
夜	夕食を兼ねた交流会
	グループワーク ステップ2: 問題の解決策を話し合い、提言をまとめる

2日目 2018年8月31日(金)

午前	エクササイズ&レクリエーション大会 身体を動かしてグループワークで疲れた頭を休め、他グループのメンバーとも交流を深める。
午後	グループワーク ステップ2:問題の解決策を話し合い、提言をまとめる。全体発表会準備
夜	グループワーク ステップ3:レジュメ作成、全体発表会前の最終準備等

3日目 2018年9月1日(土)

午前	グループワーク ステップ3:レジュメ作成、リハーサル、全体発表会前の最終準備等
午後	全体発表会 各グループによる発表、質疑応答、考察、講評等
夜	全体発表会 各グループによる発表、質疑応答、考察、講評等

4日目 2018年9月2日(日)

午前	クロージング 4日間を振り返りまとめ ワークショップ全体への考察、講評、今後の課題について 写真撮影、片付け等 全プログラム終了、解散
----	--



写真：2017年度開催のワークショップより

募集要項

実施概要

- 名称： アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップ
- 期間： 2018年8月30日(木) ～ 9月2日(日)・4日間
- 場所： 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)
- 主催： アスジャ・インターナショナル
- 参加予定： 将来のアセアン各国リーダーをめざすアセアン国費留学生(アスジャ受入れ学生)30名
日本のグローバル人材として活躍を期待される日本人大学生30名

日本人大学生の参加資格および条件

1. 日本の大学に在籍し、将来のグローバル人材を目指していること
2. 心身ともに健康であり、ワークショップ参加に支障がないこと
3. ワorkshopに参加できる日常会話レベルの英語力を有し、アカデミック英語を学ぶ強い意欲があること
4. すべてのワークショップに参加できること(日程の一部だけの参加は認められません。)
5. プログラム終了後、A4サイズ1枚程度のレポートを提出すること(提出できない場合は、アスジャ事務局が支弁した費用の一部を返納する必要があります。なお、レポートはアスジャ・インターナショナル関係者に配布されます。)

申込方法

所属大学の担当窓口での受付後、「申込書」をアスジャ・インターナショナル事務局まで提出してください。

◆書類選考の上、参加者を決定いたします。

アスジャ・インターナショナル事務局への申込書提出締切

2018年7月25日(水)必着

問い合わせ先

アスジャ・インターナショナル事務局

〒169-0074 東京都新宿区北新宿3丁目22番7号

独立行政法人日本学生支援機構 東京日本語教育センター内

電話: 03-5338-1285 / FAX: 03-5338-1286

Email: info@asja.gr.jp

担当: 萩原 (ハギハラ)

写真: 2017年度開催のワークショップより





平成30年度アスジャ・インターナショナル主催
アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップ募集要項
2018年6月25日発行

発行者：アスジャ・インターナショナル
〒169-0074 東京都新宿区北新宿3丁目22番7号
独立行政法人日本学生支援機構 東京日本語教育センター内



**ASJA International Exchange Workshop for
ASEAN-MEXT Scholarship Recipients and Japanese University Students**